

【1月・1歳児・高月齢】

ほいくのおまもりプラス

	Aさん(高月齢/男児/活発) (2歳9カ月/4月生まれ)	Bさん(高月齢/女児/活発) (2歳8カ月/5月生まれ)	Cさん(高月齢/男児/静か) (2歳7カ月/6月生まれ)	Dさん(高月齢/女児/静か) (2歳6カ月/7月生まれ)
子どもの姿	1. 泣いて登園する日が多かったが、保育者に抱っこされながら思いを受け止められることで少しずつ落ち着き、遊びを見つけることができた。 2. 玩具の取り合いなどのトラブルでは、怒って泣きながらも、「ため」「あとで」など言葉で思いを表現しようとしていた。 3. 本児や母の体調不良により、欠席が多かった。	1. 上着の着脱の際に、ファスナーの上げ下げやボタンかけを自分でやりたがり、保育者の援助も嫌がるがあった。 2. 新しい絵本を気に入り、保育者にくり返し読んでもらっていた。 3. 寒さから排尿間隔が短くなり、漏らしてしまうことがあった。		
ねらい	1. 安心感を持って生活する 2. 自分なりの言葉で思いを表現し、伝える喜びを感じる	1. 簡単な着脱を自分でしようとする 2. 絵本を通じたやり取りを楽しむ		
内容	1. 保育者に思いを受け止めてもらうことで気持ちを切り替え、好きな遊びを見つける。 2. 保育者や友だちとままごとを楽しむ中で、簡単な言葉で自分の思いやしてほしいことを伝える。	1. 難しい部分を保育者に手伝ってもらいながら、上着のファスナーを上げたり、ボタンをかけるようにする。 2. 絵本に出てくる言葉や表現をまねしたり、保育者や友達とイメージを共有することを楽しむ。		
環境構成 配慮 援助	1. 登園時に保護者と離れたがらないときは、気持ちを切り替えやすいように好きな絵本や玩具を見せたり、「今日は何をして遊ぶうね」「どこへ行こうね」など、活動に期待を持てる声かけをする。生活や遊びの中で情緒不安定な様子が見られるときは、落ち着くことができるように本児の背中をさすったり抱っこをしながら、「○○なんだね」と思いを言葉にしながらか寄り添う。 2. 保育者も遊びに入って生活の再現を楽しむ中で、「今日のご飯は何にしよう?」「これください」など言葉でのやり取りを促す。子ども同士の間わりを見守り、トラブルに発展しそうなどときや、思いがうまく伝わらない様子が見られるときは、丁寧に言葉を補って仲立ちする。	1. 自分でできたという感覚を味わうことができるよう、時間がかかっても見守り、できた部分は見逃さずほめ、難しい部分は後ろからさりげなく手を添えて援助する。ファスナーは壊れやすいので、丁寧に上げ下げを行えるように、保育者が見本を示しながら「そっと上げるよ」とわかりやすく伝える。 2. 季節や興味に合った絵本を用意し、本児が自ら選び取れるよう、手の届く場所に配置する。保育者と一対一で楽しむだけでなく、友だちを交えて一緒に読む機会も作り、くり返しの言葉や動きをまねする面白さを共有できるようにする。		
食事	・食べ始めは意欲的なので、苦手な物もバランスよく食べ進められるように、「こちのおかずはどんな味かな」と声をかけながら見守る。 ・友だちや保育者と話すことに夢中になっているときは、楽しさを受け止めつつ、「食べ終わったらお話を聞かせてね」「次はどれを食べよう」と伝え、食事に意識を戻せるようにする。	・苦手な食材を自分で食べてみようとする姿を見逃さず、「自分で食べるんだね」「見ているからね」と言葉をかけて励ます。 ・皿に残った食材をきれいに集めようとする姿を見守るとともに、「手伝って」と頼まれたときにはすぐに応え、安心感を持って自立に向かえるようにする。		
家庭の連携	3. 園やクラスでの感染症の発生状況を共有し、本児にも体調の変化が見られたときは速やかに伝え、悪化を防ぐ。 ・年末年始の疲れが見られるときは、無理せずゆったりと過ごせるように配慮しつつ、家庭と密に様子を伝え合い、生活リズムを整えていく。	3. 家庭からは着替えと体を拭くタオルを多めに持参してもらうとともに、園では気温や活動に応じて布パンツからオムツに履き替える提案を行い、本児の意思を尊重しながら快適に過ごせるようにする。 ・本児の「自分でやりたい」という意欲を十分に満たせるように、着脱しやすい衣服での登園に協力してもらう。		
評価・反省	1. 休み明けは登園時に泣く日が続いたが、生活リズムが戻るとともに少しずつ落ち着き、泣かない日も増えた。今後も本児の不安な気持ちに寄り添った対応をしていく。 2. ままごとや買い物ごっこを通じて、「これください」「ありがとう」など、言葉でのやり取りを楽しむことができた。友だちと関わる姿もよく見られたので、保育者が介入し過ぎないように配慮しながら見守る。	1. 毎日行う中でファスナーの上げ下げには慣れてきたが、ボタンかけはまだ難しく、援助が必要だった。ボタンかけを楽しめる手作り玩具で遊びながら、慣れていけるようにする。 2. 節分の歌絵本を気に入り、保育者や友だちと一緒に「鬼のパンツ」を歌いながらくり返し読んでいた。行事が済んだら絵本を片づける予定だったが、子どもの様子に合わせて引き続き出し、表現活動やリズム遊びに活用したい。		

無料版: 2名分
↓
有料版の
"おまもりプラス"
は12名分が
閲覧&DL可能!

子どもの姿の1, 2は『内容/ねらい/環境構成・配慮・援助』、3は『家庭との連携』と連動しています。

敬称と性別表記: ウェブサイトに当社方針を記載しております。